

大丈夫よ！ お母さん！

教育コーディネーター 中西美沙子


(今回のテーマ)
今、立ち上がったよ

赤ちゃんが、足を踏ん張って立とうとしています。ふつくらとした足指に力が入ります。その姿に私は「生きるための序章」を感じてなりません。

人は希望を拾いながら、大切なものを失ってゆく――

この詩人の言葉を読みながら、感じるものがあります。生きることの難しさと表現したらしいのでしょうか、そんな感覚です。

ホンダの二足歩行ロボット「アシモくん」を、テレビで見ました。よちよちと懸命に歩く「アシモくん」。その姿を見ながら私は、人間の赤ちゃんが自然に立ち上がることの奇跡を思います。

私には2歳になる男の子の孫がいます。とても元気で走り回っています。歩みを始めた時の喜びは、ひとしおでした。でもなぜか人は、その喜びを忘れてしまいがちです。その後にはやってくるのは「習いごと」の洪水。誰よりも「早く」、「習いごと」をさせようと焦るお母さんを見かけます。

私は文章を教える教室を開いています。「習いごとが多いようでしたら、少し減らしてからまたいらしてくださいね。見学にくるお母さん方に、最初に私が言う言葉です。それは「習いごと」には「時分」というものが必要だと、いつも考えているからです。習いごとが悪いわけではないのですが、今何が必要か、必要でないかを考えて、子育てをすべきだと思っているのです。

春先になると教室の庭の木々が芽吹きます。沙羅双樹の固い芽は、若芽になって萌えだし、初夏にはかれんな白い花をつけます。そしてあふれるように葉が茂ります。子どもの成長も、木とどこか似ています。手を入れる加減を間違えると、木も、子どもの心も、歪んだり枯れたりします。「習い事が足りなかったのでは」。若いお母さん方が心配します。そんな時は「与えすぎより、もっとやってあげれば良かった」と後悔の方がずっといいですよと答えます。先日、教室を見学にみえた方がいました。

「勉強させないと遅れてしまう」と、周りから言われるのですが。不安そうにお母さんが話します。「勉強や習いごとが必要なこともありません。でもその時期を計らないとね」と私。「日曜日を家族で楽しく過ごすようにしているのです」。私は彼女の子育ての仕方をほめ、「小さい頃は、勉強を無理強いしないで、子どもとの時間を大切にしたいですね」と話しました。

以前、植木屋さんから聞いた話があります。「木を立派に育てたいと思ったら、肥料をやたらにやらないことだ。昔、私も肥料をやりに過ぎて枯らしたことがあったので、その言葉は身にしました。子育ても同じで、人が持つ自然な力を活かすことが、子どもの未来を作ると思えてなりません。

薬師寺を再建した西岡常一さん。家を建てるには「木組み」が重要、と彼は言います。木の建物が曲がったり歪んだりするのは、ちゃんと「木組み」を見ていないからだ。自然な形で建てれば、山で生きた倍の時間を、建物になってからも木は生きる、と。西岡さんは「木組みは人の心組みだ」と、含みのある話もしています。

西岡さんの言う「心組み」は、子育てのヒントでもあるのではないのでしょうか。子どもが小さなきは「すくすく育つ環境」を用意するだけで良いと、私は考えます。

孫が新しい靴を買いました。柔らかさそうなかわいい靴をはいて、散歩にでかけます。地面に触れる感覚がうれしいのか、とときどき止まって足元をみつめます。そして母親の方に目をやります。緑の新芽と家族が、光の輪になってつながっていきます。

Profile

教育コーディネーター
中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「(株)クレアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブブルー」「建築プロデュースまい」「食彩いわさか」「ときわ薬局」など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索



ピアノシモでね

中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいる描かれています。(税込1,500円)
※お求めは浜松市内の谷島屋で。

